

## はじめに

近頃の幼児の育ちについては、基本的な生活習慣が身に付いていない、他者とのかかわりが苦手である、自制心や耐性、規範意識が十分に育っていないなど、様々な課題が指摘されている。

また、小学校1年生などの教室において、学習に集中できない、教員の話が聞けずに授業が成立しないなど学級がうまく機能しない状況も見られます。その原因の一つに就学前の教育と小学校教育の間にある「段差」が指摘されています。

子どもたちの成長や発達には連続するものであり、学校間でのなめらかな接続が当然求められるところであります。小学校入学は決してゼロからの出発でなく、小学校教育は就学前の学びを生かしたものにしていくべきだと考えます。

平成17年1月の中央教育審議会答申「子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方について」においても、「遊びを通して学ぶ幼児期の教育活動から、教科学習が中心の小学校以降の教育活動への円滑な移行を目指し、幼稚園等施設と小学校との連携を強化する。特に、子どもの発達や学びの連続性を確保する観点から、連続・接続を通じた幼児教育と小学校教育双方の質の向上を図る。具体的には、幼児教育における教育内容、指導方法等の改善等を通じて生きる力の基礎となる幼児教育の成果を小学校教育に効果的に取り入れる方策を実施する。」と示されています。

大阪府では、平成15・16年度、幼稚園・保育所と小学校の円滑な接続を図ることが、小学校以降の子どもの学習や生活を豊かにすると考え、小学校から幼稚園・保育所への連携の積極的な働きかけを行い、今後の取り組みを促すことを目的に「わくわくスタート事業」を実施しました。また、文部科学省委嘱事業「就学前教育と小学校との連携に関する総合的調査研究」を府内、6市1町で取り組んできました。

そして、これらの事業の成果と課題を把握するために、大阪市を含む府内約1000校を対象に調査を実施し、府内の幼保小連携の現状の一端を把握することができました。

都市化、核家族化、地域コミュニティの弱体化が進み、それに伴い家庭や地域の教育力が低下しているといわれております。また、産業構造や就労形態の変化、少子化の進行など、子どもを取巻く環境は決して望ましいものではありません。

今こそ保育所・幼稚園と小学校の教員が、それぞれが培ったものを積極的に共有し、子どもたちの健やかな成長のために具体的な方策を検討していく必要があります。本冊子はその一助に活用されれば幸いです。

終わりに、大阪府の幼児教育推進のための諸事業にご指導、ご協力いただきました先生方、本書の作成のためにご協力いただいた関係諸学校の皆様にあらためて感謝いたします。

平成18年12月

大阪府教育委員会 市町村教育室

小中学校課長 辻村 隆史